

市内の縄文時代の遺跡分布

I-8



I-8

市内の弥生時代の遺跡分布

I-9-①



I-9-①

弥生時代の遺跡は、まだ丘陵上に多く分布しています。丘陵付近の湿地帯は、稲作に適していたのでしよう。

また、この時代になると名取川沿いに発達した自然堤防上にも遺跡が見られるようになります。自然堤防の微高地は、排水条件がよいため集落や畑地に適し、その周辺の後背湿地は、稲作に適していたからなのでしょう。

I-9-②

発展し続ける名取の基礎を築いた弥生時代

I-10-①

弥生時代のあゆみ

時期区分	市内の主な遺跡	主なできごと
前期 2400年前	中野原遺跡、新野山遺跡、新野山遺跡	北米州地方に稲作文化が広がる 米の栽培が中心となる 北米州地方で縄文遺跡が出現する
中期 2100年前	新野山遺跡、新野山遺跡	稲作が中心となり水田が広がる 新野山遺跡で水田が認められる 稲作が中心となる
後期 1900年前	新野山遺跡、新野山遺跡	稲作が中心となり水田が広がる 稲作が中心となる
1700年前	新野山遺跡、新野山遺跡	稲作が中心となり水田が広がる 稲作が中心となる

I-10-①

農耕に適した平野が早くから開けていた名取の地は、生業が狩り中心から稲作中心の農耕に移行し始めた当時の人々にとって、理想的な土地であったようです。このようにして農耕社会の基盤が形成された名取の弥生文化は、自然条件に左右されながら、弥生文化を発展させていったのでしよう。

そして、名取川が運んで来たよく肥えた土が名取平野に堆積していることも助け、徐々に余剰生産物を生み出せるような生産力を確立していったようです。ナイル川流域に発生したエジプト文明が「ナイルのたまもの」といわれたように、名取平野も名取川の恩恵を受けていたのです。

名取平野の開墾や治水などの共同作業では、指導者の役割が大きく、かれらははたいてい人々の生活全体を支配する権力を握るようになり、豪族と呼ばれるような支配者へと生まれ変わっていったのでしよう。

古墳時代に出現する雷神山古墳や飯野坂古墳群などの大規模な古墳が、名取平野に数多く存在することは、この地域に豪族がいたことと、それをつくるための経済的な基盤がしっかりしていたことを物語っています。まさに、弥生時代に始まる稲作農耕が、その時代以降も発展し続ける名取の基礎となっているのでしよう。